

## 学校施設の耐震診断結果について（報告）

### 1. 学校施設の耐震化について

- ◆学校施設の耐震化について、現行の耐震基準（昭和 56 年施行）以前に建てられた（着手）施設について耐震二次診断を行い、必要に応じて補強工事を行うものですが、文部科学省では、各地方公共団体に対して、平成 27 年度までのできるだけ早い時期に、全ての施設の耐震化完了に向けて積極的な取り組みを行うことを依頼しています。
- ◆建物の耐震性能について、国土交通省による指標で一般的には  $I_s$  値 0.6 以上が必要とされていますが、文部科学省では、学校施設は児童生徒の安全性、災害時の避難場所としての機能性を考慮し補強後は  $I_s$  値 0.7 以上を求めています。
- ◆耐震二次診断の結果は、平成 20 年 6 月改正の地震防災対策特別措置法により公表が義務付けられています。

### 2. 耐震診断の結果等について

#### （1）優先度ランクが高い施設（優先度ランク①～②）

昭和 56 年以前に建設（着手）された施設のうち、平成 18 年度に実施した耐震化優先度調査の結果で、 $I_s$  値 0.3 未満が推定される施設から、学校再編事業で整備する施設を除いたものについて、平成 20 年度から耐震二次診断を行い、平成 21、22 年度で耐震化工事を実施しました。

#### （2）大牟田市立学校再編整備第二次実施計画を考慮した全ての施設（優先度ランク①～⑤）

平成 23 年度からは、（1）で実施した残りの施設について、耐震二次診断等を行いながら、学校再編と整合を図りつつ、平成 27 年度までに耐震化を行うことを目標に取り組んでいます。

#### ◆平成 26 年度の耐震二次診断実施校の診断結果（別紙に診断結果一覧）

◇駛馬南小学校	$I_s$ 値 0.76		
◇明治小学校	$I_s$ 値 0.63	$I_s$ 値 0.66	$I_s$ 値 0.77
◇高取小学校	$I_s$ 値 0.80		
◇松原中学校	$I_s$ 値 0.18	$I_s$ 値 0.69	
◇橘中学校	$I_s$ 値 0.15		
◇甘木中学校	$I_s$ 値 1.04		

◆平成 26 年度に実施する耐震化工事（6 棟）及び耐震二次診断の結果、現行耐震性能を有する棟数（4 棟）を合せて、本市の学校施設のうち現行耐震基準に適合する施設は、113 棟となり、平成 26 年度末の耐震化率は、90.4%（113 棟/125 棟）となります。

◆平成 26 年度に耐震二次診断を行った結果、9 棟のうち現行耐震基準に適合しない 5 棟について、平成 27 年度に耐震補強工事を行います。

## 【用語の説明】

### ○耐震化優先度調査

耐震化優先度調査は、コンクリート強度や施設の構造、老朽化の度合いなどを指標として、耐震化を行う優先度を 5 段階で区分したものです。

5 段階の区分は、ランク①（優先度が高い）～⑤（優先度が低い）となっています。

### ○耐震診断

既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準等に基づいて、コンクリート強度調査（圧縮試験、中性化試験）、構造調査（鉄筋の腐食の度合い、鉄筋の太さ、鉄筋の間隔、コンクリートかぶり厚の調査、構造特性）及び建物の目視による調査を行い、その結果を耐震診断プログラムで解析し、耐震性能を数値化することです。

### ○I s 値について

I s 値（構造耐震指標）とは、耐震診断の結果を数値化したもので、建物の耐震性能を表す指標です。

地震力に対する建物の剛性（変形に対する抵抗力）、地震力に対する建物の靱性（変形する能力）が大きいほど、この指標も大きくなります。

国土交通省の告示（平成 7 年 12 月 25 日）による I s 値の指標は次の通りです。

- ・ I s 値 0.3 未満                      大規模な地震により倒壊等の危険性が高い。
- ・ I s 値 0.3 以上 0.6 未満          大規模な地震により倒壊等の危険性がある。
- ・ I s 値 0.6 以上                      大規模な地震により倒壊等の危険性が低い。